

## 資料・統計

## 2007年悪性疾患入院患者統計

## Statistics of Inpatients with Malignancy in 2007

新潟県立がんセンター新潟病院

情報調査部 病歴室

2007年の悪性疾患入院患者統計について報告する。

## 悪性疾患入院患者の基礎資料 (表1)

2007年の病床稼働率は87.9%で、前年(91.9%)より4ポイントと大幅に低下したが、平均在院日数は14.1日と前年(14.7日)より0.6日短縮したため、結果として総入院患者延数は11,515で、前年(11,413)より102人(0.9%)増加した。このうち悪性疾患での入院患者実数をみると、2007年悪性登録患者実数は2,811(前年比+196)、悪性疾患登録疾患数は2,918(同+23)とわずかながら前年より増加しており、いずれも過去最多であった。

## 悪性新生物疾患別数の推移 (表2)

表2に悪性新生物の新規登録患者数の年次推移を部位別に示した。2007年は前立腺(+49)と血液疾患(+28)の増加が目立ったが、その他の部位に大きな変動は認めず、ほぼ前年と同様の傾向であった。患者実数でみると、当院で多いのは肺がん(626)、胃がん(579)、乳がん(538)、結腸・直腸がん(392)、前立腺がん(268)の順であるが、患者延数でみると、乳がん(2,374)、肺がん(1,277)、血液がん(994)、胃がん(843)、結腸・直腸がん(753)の順となり、乳がん・肺がん・血液がんでは化学療法のための繰り返し入院が多いことが判る。

## 全疾患に占める悪性新生物の割合 (表3・4)

全入院患者に対する悪性疾患患者の割合は近年急速に上昇してきているが、2007年は疾患別患者実数ベース(表3)では68.34%(前年68.30%)、入院患者延数ベース(表4)では82.55%(前年82.51%)と、前年度とよりわずかに上昇した程度であった。さらに悪性疾患と良性疾患の平均在院日数の差を考慮し、実際の病床利用上でのがん患者割合(がん専門病床割合)を見ると、84.31%(前年84.52%)であり、実質上当院の病床の85%程度を悪性疾患患者が占有しているといえる。悪性疾患以外の患者も受け入れている当院の総合病院としての性格を考慮すると、このあたりの数値が悪性疾患割合の上限と思われる。

## 診療科別入院患者悪性疾患比率 (表5)

診療科別に悪性疾患入院患者延数とその比率を見ると、婦人科の増加(+131, +5.6%)が目立った程度で、前年と大きな変動は認められなかった。近年では、整形外科と眼科以外では、入院患者の殆どが悪性疾患患者で占められている状況にある。

死亡退院数は総数502(前年531)、悪性464(前年501)ともに前年より減少していた。剖検数は18件(前年25件)で、剖検率は3.6%と年々低下している。

診療科別・在院期間別・性別退院患者数 (表6)  
および病類別・在院日数別患者数 (表7)

性別退院患者総数(延数)は、男性5,339(前年5,188)、女性6,176(前年6,225)で、性比は男性46.4%(前年45.5%)、女性53.6%(前年54.5%)であった。乳がん患者の多い外科や、婦人科・泌尿器科で性差があることは当然であるが、その他のがん患者比率が高い内科(男女比2.03倍)・呼吸器外科(同1.74倍)・放射線科(同1.99倍)などの診療科ではいずれも男性の比率が高かった。患者実数で見ても、乳がんと生殖器がん以外では、原発不明がんを除く全ての部位で男性患者が多かった(表2)。

平均在院日数は、良性疾患で12.8日、悪性疾患で14.4日であり、全平均は14.1日と前年の14.7日からさらに短縮した。当院の平均在院日数が短い最大の理由は、西2病棟などでの短期化学療法のための入院患者が非常に多いためで、これを裏付けるように、1-7日間の入院件数が、外科の女性(大半が乳がん患者)で2,222件と非常に多くなっている。これら短期化学療法入院の大半は、将来的にDPC対象病院となった場合には、外来化学療法に移行するものと思われる。

## 2006年登録分までの予後調査 (図1)

2006年登録分までの45年間51,656名の登録患者のうち、予後調査対象となる、登録後20年未満の症例は34,284件であった。そのうちの既に死亡が確認されている患者および新潟県の地域癌登録にて死亡が新たに確認された患者以外で、当院に1年間以上来院履歴が無く、生死不明の患者2,309名に対し、郵

送による直接照会を実施した。2,309件中回答が得られたのは1,407件 (60.9%) と、過去最低率であった。未回答の902件に対しては、法務局の許可を得て、市町村に戸籍照会をかけたが、外国籍や本籍地が不正確などの理由で、50件 (0.13%) が予後把握不能であった。当院の病歴室は毎年ほぼ100%の予後把握率を誇っていただけに、率としてはわずかとはいえず、50件もの不明症例が発生したことは大問題と捉えている。

予後調査には市町村の住民課の協力が不可欠であるが、個人情報保護法の制定以来、住民基本台帳の

閲覧や戸籍抄本の写しの交付に関する制限が厳しくなり、地域がん登録とは異なり、法的根拠に乏しい院内がん登録の予後調査は年々実施しにくい状況が進行している。具体的には本籍地の住所や戸籍筆頭者に不備がある場合は全く受け付けてもらえず、また費用を請求する自治体も増えてきている。この問題は当院に限ったことではなく、全国的な動向であり、今後全国のがん診療連携拠点病院が全て予後調査を開始した場合には、大混乱を起こす可能性が高いことから、国レベルでの早急な検討が望まれる。

表1 2007年悪性疾患入(退)院患者統計

2007年の悪性疾患入院患者の基礎資料

1. 2007年初回悪性疾患登録患者数 (実数).....2,811
2. 2007年の悪性疾患登録疾患数.....2,918  
 内訳：本年初登録で単疾患2,475例, 2,475疾患  
 本年初登録で複数疾患94例, 191疾患  
 既登録で本年初発疾患242例, 252疾患
3. 2007年の悪性疾患入院患者実数.....4,176  
 '06年以前の登録患者も含む
4. 2007年の入院加療悪性疾患患者延数.....9,506  
 同一年の再入院も含む
5. 2007年の総入院患者実数.....5,680
6. 2007年の総入院患者延数.....11,515

表2 悪性新生物疾患別数の推移 (実数)

部位等 (ICD10)	2005年		2006年		2007年				
	患者実数	悪性登録数	患者実数	悪性登録数	患者実数	男	女	悪性登録数	患者延数
口唇、口腔および咽頭の悪性新生物 (C00 ~ C14)	66	37	62	47	56	43	13	42	76
食道の悪性新生物 (C15)	169	110	177	127	183	162	21	113	423
胃の悪性新生物 (C16)	507	432	572	473	579	384	195	488	843
小腸の悪性新生物 (C17)	12	10	7	8	15	11	4	10	28
結腸の悪性新生物 (C18)	215	178	257	209	243	141	102	188	481
直腸、直腸S状結腸移行部および肛門の悪性新生物 (C19 ~ C21)	141	108	144	115	149	98	51	113	272
肝および肝内胆管の悪性新生物 (C22)	84	57	71	47	75	58	17	37	130
胆嚢および肝外胆管の悪性新生物 (C23,C24)	43	32	32	22	38	23	15	31	107
膵の悪性新生物 (C25)	84	58	88	60	76	50	26	53	127
その他消化器および腹膜の悪性新生物 (C26,C48,C45.1)	8	4	7	6	7	4	3	1	14
喉頭の悪性新生物 (C32)	52	40	44	34	36	33	3	25	45
気管、気管支および肺の悪性新生物 (C33,C34)	596	406	636	405	626	432	194	406	1227
その他呼吸系および胸腔内臓器の悪性新生物 (C30,C31,C37 ~ C39,C45.0,C45.2)	16	10	16	11	18	9	9	17	33
骨および関節軟骨の悪性新生物 (C40,C41)	13	9	18	9	17	9	8	12	25
皮膚の悪性新生物 (C43,C44,C46)	70	57	75	62	77	40	37	68	90
乳房の悪性新生物 (C50)	509	326	536	327	538	1	537	336	2374
結合組織およびその他の軟部組織の悪性新生物 (C47,C49)	23	18	28	21	33	20	13	19	72
子宮頸の悪性新生物 (C53)	78	57	90	66	95	-	95	54	288
その他子宮の悪性新生物 (C54,C55)	75	54	95	70	93	-	93	62	278
その他女性生殖器の悪性新生物 (C51,C52,C56 ~ C58)	108	59	88	44	94	-	94	47	387
前立腺の悪性新生物 (C61)	244	206	217	193	268	268	-	236	314
膀胱の悪性新生物 (C67)	152	76	185	110	184	156	28	112	292
腎および腎盂の悪性新生物 (C64,C65)	90	68	80	54	92	67	25	66	156
その他の泌尿生殖器の悪性新生物 (C60,C62,C63,C66,C68)	46	32	52	37	54	43	11	36	105
脳の悪性新生物 (C71)	6	5	6	5	9	5	4	9	12
その他および部位不明の悪性新生物 (C69,C70,C72 ~ C80)	137	90	135	99	138	53	85	90	224
再掲 [甲状腺 (C73)]	83	61	86	67	88	24	64	56	101
白血病 (C91 ~ C95)	103	49	101	42	105	63	42	49	357
その他のリンパ組織および造血組織の悪性新生物 (C81 ~ C85,C88,C90,C96)	179	95	168	100	192	104	88	112	637
上皮内癌 (D00 ~ D09)	92	97	94	92	86	3	83	86	89
計	3,918	2,780	4,081	2,895	4,176	2,280	1,896	2,918	9506

表3 悪性疾患入院患者実数の年間推移 (実数および比率)

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
悪性疾患入院患者実数	2,843	3,138	3,561	3,923	3,918	4,081	4,176
%	55.18	58.51	62.30	66.30	66.47	68.30	68.48
疾患別患者実数	5,152	5,363	5,716	5,917	5,894	5,975	6,098

表4 悪性疾患入院患者延数の年間推移 (延数および比率)

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
悪性疾患入院患者延数	5,374	6,845	8,293	9,445	9,124	9,417	9,506
%	68.34	74.17	78.28	81.56	81.34	82.51	82.55
疾患別患者延数	7,864	9,229	10,594	11,581	11,217	11,413	11,515

表5 診療科別入院患者悪性疾患比 (延べ数, 重複あり, 死亡・剖検は実数)

診療科	悪性疾患患者 (%)		入院患者数	死亡数		剖検数	
				悪性	総数	悪性	総数
内科	2,342	(81.4)	2,876	233	257	12	13
神経内科	0	(0.0)	35	0	1	0	0
小児科	330	(90.2)	366	4	5	4	4
耳鼻咽喉科	170	(77.6)	219	9	9	0	0
外科	3,805	(94.0)	4,050	124	127	0	0
呼吸器外科	377	(88.3)	427	15	16	1	1
整形外科	115	(27.1)	425	5	5	0	0
心臓血管外科	0	(-)	0	0	0	0	0
脳神経外科	138	(70.4)	196	7	12	0	0
麻酔科	0	(-)	0	0	0	0	0
眼科	2	(2.3)	87	0	0	0	0
皮膚科	113	(82.5)	137	6	6	0	0
泌尿器科	790	(69.6)	1,135	33	36	0	0
婦人科	1,044	(81.6)	1,279	25	25	0	0
放射線科	280	(98.9)	283	3	3	0	0
合計	9,506	(82.6)	11,515	464	502	17	18

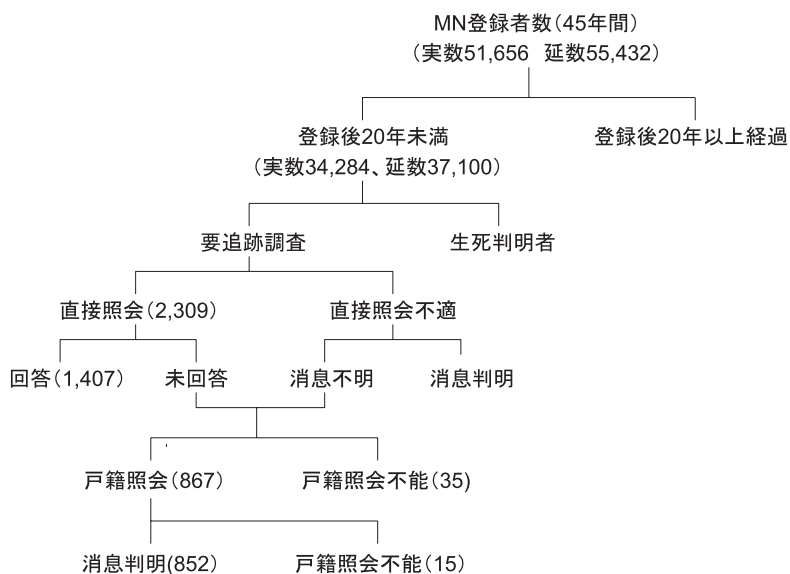


図1 2006年予後調査

表6 診療科別・在院期間別・性別 退院患者数

科別	在院期間別		総数	1-7日	8-14日	15-30日	31-90日	91-180日	180日以上	平均在院日数
	性別									
総数	男		5339	1772	1490	1353	661	53	10	17
	女		6176	3503	1249	902	472	42	8	12
内科	男		1926	464	609	536	287	27	3	19
	女		950	248	256	278	151	15	2	20
神経内科	男		15	3	6	6	0	0	0	14
	女		20	8	3	7	2	0	0	17
小児科	男		216	113	18	39	37	6	3	23
	女		150	70	15	35	23	5	2	23
耳鼻咽喉科	男		133	27	20	36	40	8	2	37
	女		86	6	53	16	9	2	0	19
外科	男		1195	375	401	310	103	6	0	15
	女		2855	2222	403	164	59	7	0	6
呼吸器外科	男		271	26	76	150	19	0	0	17
	女		156	10	47	93	6	0	0	17
整形外科	男		180	33	37	66	38	4	2	26
	女		245	24	45	96	73	4	3	29
心臓血管外科	男		0	0	0	0	0	0	0	0
	女		0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科	男		103	23	23	39	18	0	0	18
	女		93	18	22	35	18	0	0	20
麻酔科	男		0	0	0	0	0	0	0	0
	女		0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	男		40	38	2	0	0	0	0	5
	女		47	39	4	1	3	0	0	7
皮膚科	男		66	15	40	7	4	0	0	12
	女		71	15	43	9	3	1	0	13
泌尿器科	男		1006	625	215	113	51	2	0	9
	女		129	54	38	24	12	1	0	14
婦人科	男		0	0	0	0	0	0	0	0
	女		1279	768	297	120	86	7	1	11
放射線科	男		188	30	43	51	64	0	0	25
	女		95	21	23	24	27	0	0	21

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{退院患者の入院延日数}}{\text{退院患者延数}}$$

表7 2007年病類別 (大分類) 在院日数別患者数

疾病大分類	在院日数	計	1~7日	~14日	~30日	~90日	~180日	~181日 以上	平均在院 日数
合計		11,515	5,275	2,739	2,255	1,133	95	18	14.1 (162,341)
I 感染症および寄生虫症		60	23	15	18	4	0	0	12.3 (739)
II 新生物		9,835	4,450	2,345	1,950	986	88	16	14.3 (140,535)
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害		35	14	8	8	3	2	0	19.7 (689)
IV 内分泌, 栄養および		40	12	15	9	4	0	0	14.6 (583)
V 精神および行動の障害代謝疾患		1	1	0	0	0	0	0	2.0 (2)
VI 神経系の疾患		33	20	5	3	5	0	0	14.7 (485)
VII 眼および付属器の疾患		83	77	5	1	0	0	0	5.0 (411)
VIII 耳および乳様突起の疾患		9	8	1	0	0	0	0	5.0 (45)
IX 循環器系の疾患		188	84	47	48	9	0	0	11.9 (2,238)
X 呼吸器系の疾患		192	56	56	61	16	1	2	19.7 (3,777)
XI 消化器系の疾患		267	76	113	59	17	2	0	13.8 (3,681)
XII 皮膚および皮下組織の疾患		24	5	16	2	1	0	0	11.7 (281)
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患		149	15	18	59	56	1	0	28.1 (4,194)
XIV 尿路性器系の疾患		445	373	58	8	6	0	0	4.7 (2,089)
XV 妊娠, 分娩および産じょく (褥)		2	0	1	1	0	0	0	16.0 (32)
XVI 周産期に発生した病態		0	0	0	0	0	0	0	0.0 (0)
XVII 先天奇形, 変形および染色体異常		5	3	0	2	0	0	0	10.4 (52)
XVIII 症状, 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		47	26	17	4	0	0	0	7.2 (337)
XIX 損傷, 中毒およびその他の外因の影響		84	16	19	22	26	1	0	24.9 (2,093)
XX 傷病および死亡の外因		0	0	0	0	0	0	0	0.0 (0)
XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用		16	16	0	0	0	0	0	4.9 (78)
XXII 特殊目的用コード		0	0	0	0	0	0	0	0.0 (0)

( ) 延日数

良性平均在院日数 12.8 (総日数25,665)  
 悪性平均在院日数 14.4 (総日数136,676)

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{退院患者の入院延日数}}{\text{退院患者延数}}$$